



# 突然の

# 豪雨、突風

特集「いつか」は突然やってくる — 災害への備え —

## 近

年、全国各地で大型台風や集中豪雨、地震などの甚大な自然災害が多発し、避難の遅れなどが原因で多くの行方不明者や死傷者が出ています。

これから台風が多く発生する季節。突然やってくる災害には、「日頃からの備え」が必要になります。災害が発生する前に、いま一度、ご家庭で防災について考えてみましょう。

## 日立市も例外ではない 自然災害

日立市は気候が穏やかで、災害の少ない地域だと言われてきました。しかし、実際には台風や発達した低気圧による風水害などにより、多くの被害が発生しています。

まだ記憶に新しい昨年の令和元年東日本台風では、日立市でもこれまでにないような豪雨、

突風により甚大な被害が発生しました。

日立市天気相談所の西部観測所では、1時間の最大降水量が40mmを超えるバケツをひっくり返したような雨が降り、1日の降水量は、観測史上1位（1986年から観測）を記録する239mmもの大雨が降りました。

この大量の雨により、河川水位は大きく上昇し、久慈川（榊橋）、里川（町屋）では氾濫危険水位を超え、斜面が削られ、あと少しで車や住宅が巻き込まれるほどの濁流となりました。

また、最大瞬間風速は20m/sを超え、何かにつかまっていなと立っていられないような風が吹き、市内各地で木の幹が折れ、道路を塞ぐなどの被害が発生しました。

市内の多くの方が避難を余儀なくされ、市内39か所に開設した避難所には、最大で約1800人の方が避難しました。



【令和元年東日本台風による被害】

①下記インタビューの山崎さんの店舗では、あと少しで車や住宅が巻き込まれるほど、里川の護岸が削られた（写真：東河内町） ②市内各地で倒木などによる通行止めが発生（写真：金沢町） ③市内各所で道路が冠水した（写真：神田町） ④住宅などへの被害は無かったものの、多くの場所で地すべりなどが発生（写真：中深荻町）



里川近くで事業を営む山崎さん

「見慣れた風景が一夜でがらっと変わった。あの台風で水の怖さを実感した。」

あの台風の夜は、「川が増水している程度かな」と考えていましたが、朝起きて店舗の様子を見にいくと、川沿いにあったものが全て流され、車が川に落ちそうになるなど、見慣れた風景が一変していました。震災のときの津波でさえ、実感が湧かなかった水の怖さを思い知りました。

自然を相手に「今まで大丈夫だったから」は通用しません。常日頃から危機意識を持ち、とっさの状況でも行動できるように備えておくことが命を守る上で大切だと痛感しています。

【令和元年東日本台風の気象観測データ】

観測場所	1日の降水量 (10月12日)	1時間 最大降水量	最大瞬間風速
日立市役所	113.0mm	25.0mm	26.8m/s
十王交流センター	136.0mm	25.0mm	21.8m/s
西部支所	239.0mm	40.5mm	15.5m/s
南部支所	94.5mm	26.5mm	27.2m/s

\* 近隣の花園（北茨城市）、大子（大子町）でも観測史上1位の雨が降るなど、県北地区で大きな被害が発生しました。

「いつか」は「きょう」かも知れない  
 災害は突然、私たちの想像を超え、生命を脅かすような猛威で襲いかかります。  
 「この前は平気だったから、今回も大丈夫だろう」などと思わず、きちんと「命を守る行動」ができるように日頃から災害への備えをしましょう。  
 災害への備えについて、次のページでご紹介します。いつ来るか分からない災害に対して、避難先の確認や危険箇所のチェックなど、今できることを行いましょう。

感染リスクが高い今だからこそ身に付けよう

# すぐできる「災害への備え」

新型コロナウイルス感染症の感染に対する恐怖が、避難の判断を鈍らせてしまうかもしれません。迷わず安心して避難できるよう、災害が発生する前に、すぐできる「災害への備え」を家庭で取り組みましょう。

## 1 自宅の災害リスクを確認

事前にハザードマップなどで自宅の災害リスクを把握し、災害時に避難が必要かどうか確認しておきましょう。

ハザードマップは、市役所で配布しているほか、市のホームページや日立市公式地域情報アプリ「ひたちナビ」でも公開しています。



スマートフォンで、いつでもどこでも確認できる「ひたちナビ」をぜひ、ご利用ください。

## 2 親戚や知人の家などへの避難を検討

親戚や知人の家など、避難所以外でも避難ができる安全な場所がある場合は、そちらへの避難も考えておきましょう。

## 3 非常用持出品を確認

表紙の非常用持出品の一例を参考に、自分や家族が必要だと思うものを簡単に持ち出せるようバックにまとめておきましょう。

機器の動作確認や食べ物の消費期限の確認も定期的に行いましょう。



## 4 防災行政無線を確認

戸別受信機は常にスイッチを入れておきましょう。特に気象警報などが発表されている場合には、スイッチが「入」になっているか確認しましょう。

\*毎日午後4時55分に天気予報を放送しています。

きちんと受信できているか定期的に確認しましょう。



自分や家族の

命を守る

危険な場所から

# 警戒レベル4で全員避難!!

避難情報は、情報の意味がすぐ理解できるよう、5つのレベルに分かれています。

危険度	警戒レベル	取るべき行動	市が発令する避難情報
↑ 高	5	<b>命を守る行動</b> 既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をしてください。	災害発生情報
	4	<b>危険な場所から全員避難</b> 速やかに避難場所へ避難。避難場所への移動が危険なときは、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難してください。	避難指示(緊急)、 避難勧告
	3	<b>危険な場所から高齢者などは避難</b> 避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は避難してください。その他の人は、避難の準備をしてください。	避難準備・ 高齢者等避難開始
	2	避難に備え、ハザードマップなどで自らの避難行動を確認してください。	
	1	災害への心構えを高めてください。	

避難情報は災害の状況に応じて発令されます。しかし、必ずしも警戒レベル1～5の順番で発令されるとは限りません。急激な状況の変化により、すぐに避難が必要になる場合があります。防災行政無線やテレビ、ラジオなどで、こまめに最新の情報をご確認ください。

## 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応指針を策定

日上市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の懸念が広がる中、台風・大雨などによる土砂災害や洪水、地震や津波などの災害に備え、感染リスクを可能な限り軽減しながら避難所の運営を行うために必要な事項を定めました。

### ① 災害に備えた避難所の開設について

- 新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、市内小学校（東小沢・中里・山部小学校を除く）と中里中学校の23か所を基本に、災害に応じて多くの避難所を早期に開設します。
- 避難所では、できる限り、一般の方、体調の悪い方、健康に不安のある方、支援の必要な方、それぞれの生活に配慮した専用スペースや施設の確保などの対策を講じます。

### ② 避難所の施設基準

- 避難所内の避難スペースは、隣との距離を2m（間仕切りがある場合は1m）以上確保するなど、あらかじめ避難所のレイアウトを準備し、3密を防止します。
- 避難スペースは、世帯単位での利用を原則とし、2人用、4人用などのスペースを用意します。
- 飛沫対策やプライバシー確保の観点から、避難

所には可能な限り間仕切りや段ボールベットの設置します。



### ③ 避難される方への対応

- 手指消毒液を設置し、消毒を徹底します。避難所内では、マスクの着用を徹底します。
- 受付時に非接触型体温計による検温や体調、感染流行地への往来歴などを問診します。また、定期的に体調確認を行います。
- 毎時2回以上窓を開け、避難所内の換気を徹底します。

### ④ その他の対応

その他、避難される方が避難所で安心して生活できるように、感染しないための対策を講じていきます。詳しい内容は、市のホームページをご覧ください。

いざというときに備え、  
普段から準備を！

避難所を積極的に利用してほしいという思いと、避難によって感染症への感染リスクが高まるのではないかとこの思いで葛藤しています。

「避難」とは、必ず避難所に行かなければいけないというわけではなく、家の2階に逃げたり、安全な親戚や友人の家へ行くことも「避難」の一つです。

また、ハザードマップで危険箇所を確認し、自宅の災害リスクを把握しておくことで、自分や家族は、災害時に避難が必要かどうかを知っておくのが良いと思います。

それらを踏まえた上で、まずは、生命を守ることを一番に考え、避難所への避難が必要な場合は、感染症対策をした上で躊躇なく避難所を利用してください。



防災対策課  
後藤主幹

ち物として、非常食や飲料水、スリッパや懐中電灯、モバイルバッテリーなどのほかに、マスクや体温計など感染症対策になるものをまとめ、バックに入れて簡単に持ち出せるように準備しておきましょう。

そのほか、災害時には「共助」という地域の助け合いが大切です。普段から近所の方などとコミュニケーションをとり合い、いざというときに協力し合えるような体制を整えておきましょう。

災害はいつ起こるか分かりません。「いつか」のために、日頃から備えを万全にしておきましょう。